

5 畜 産

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 冬季の畜舎 環境改善</p>	<p>(今月の作業のポイント) 畜舎環境管理 機械点検整備</p> <p>四国地方 1 か月予報によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない見込みである (11 月 25 日高松気象台発表)</p> <p>夜間・早朝を中心に冷え込みが厳しくなるため、冬季の畜舎は暖かさを保つため、幼畜を中心に密閉された状態になりやすい。このような畜舎内では、ふん尿やこぼれ水等で湿度が上昇するとともに、ふん尿から発生するアンモニアガス濃度が高くなりやすくなるので、換気が重要である。</p> <p>舎内環境悪化の原因を少なくするため、次の点に注意する。</p> <p>ア 敷料やふん尿は早めに取り替え除去し、舎内にガスや湿った空気が滞留する時間を少なくする。</p> <p>イ 飲水等に使用する給水槽又は給水器からのこぼれ水をなくし、床面の乾燥に努める。</p> <p>ウ 舎内の清掃は早めに行い、塵や埃を除去する。</p> <p>エ 各種疾病の原因となる細菌・ウイルス等をなくするため、定期的な消毒など適切な対策を講じる。</p> <p>オ 冬期は呼吸器疾患に罹りやすい季節であるので、ワクチン接種などの予防を徹底する。</p>
<p>(2) 農作業機 械の点検整 備</p>	<p>飼料作物の収穫が終了すると、トラクタやその作業機械類は夏季に比べて使用頻度が減少する。点検整備にちょうど良い時期である。</p> <p>トラクタで駆動するロータリーやディスクモア等の機械は振動によりボルトが緩むため、しっかり固定されているかボルト部分を中心に点検する。また、直接地面に接触する部分 (駆動部や回転刃) は、石との衝突等により凹凸や変形が生じるので、動作や内部構造に影響がないか点検する。</p>

項 目	作 業 内 容
(3)鳥インフルエンザ対策	<p>アジア周辺諸国では、依然として高病原性鳥インフルエンザが発生していることから、引き続き、飼養衛生管理を徹底する必要がある。</p> <p>鶏舎や農場内の石灰消毒と、防鳥ネットの点検・補修を徹底し、野鳥や野生動物の侵入を防ぐ。農場内への出入り時には衣服の着替えや、車両の消毒を行い、人や車両の出入りによるウイルスの侵入を防ぐ。沢水や井戸水を利用している農場では、定期的に水質検査を実施し、塩素剤などで消毒する。</p> <p>また、異常鶏を発見した際は、最寄りの家畜保健衛生所に速やかに通報し、蔓延防止を図ることが重要である。</p>

(作成 畜産研究センター)